



富士市で
飛込競技の普及を目指す

内藤 英樹さん

(今泉)



昨年九月に行われた「NEW!! わかふじ国体」夏季大会。静岡県チームは水泳飛込競技で総合優勝しました。そのとき監督として優勝に導いた内藤さんは、国体終了後、富士常葉大水泳部監督として指導する傍ら、県富士水泳場を拠点として、飛込競技の普及に努めています。

子どもとふれあえると高齢者に人気の飛び込み教室では、初級・中級で小学生から六十歳くらいの男女約八十人に指導しています。内藤さんは、飛び込みを始めたきっかけは、最初、競泳の選手をしていたのですが、人と変わったことをしてみたいという好奇心からでした。子どものころから高い場所や体操の授業が好きだったこと、母親が飛込競技のコーチをしていたこともあり、競技への抵抗は全くありませんでした。

選手として活動後、迷った末に指導者の道へ進みました。選手をやめると決めたときには、十日く



子どもの体調にも気を配りながら丁寧に指導する内藤さん

らい何も考えられなくなり、このまま平凡な人生を過ごしてしまふのかと悩んだこともありました。ところが、いざ始めてみると、選手で満足していたはずの自分に違う感情が芽生え、指導すること、さらに飛び込みの楽しさや奥深さを感じている毎日です。これだけ飛び込みの環境・設備が整っているのは、県内でもここだけです。富士のスポーツとして根づき、このプールから全国で活躍してくれる選手が出るといいですね」と指導者としての熱意と温かさを話してくれました。

五月二十五日から二十九日まで、フィジー、トンガ、インドネシア、日本が参加して、日本初のクリケット公式国際大会となる「ICC・EAPチャレンジ2004」が富士川緑地のクリケット専用グラウンドで行われました。

クリケットとは、イギリスの国技とも野球の原型とも言われる球技で、十一人の選手で行われます。長さ二十メートルのピッチと呼ばれる細長いグラウンドの両端に設置したウイケット(木製の三柱門)間を使用し攻防します。攻守の交代はテナアウトで、一・二回で行われます。

大会の開催に携わってきた小池芳郎さん(平垣)は、クリケットは、一試合を一日かけて行うとものんびりしたスポーツです。

古くは明治時代に、日本とイギリスの間で親善試合も行われていましたが、庶民的なスポーツではなかったようです。富士市では、十五年前に来日した外国人により、普及していききました。

開会式は独特で、選手と大会関係者だけで行われます。開会式は



ダイナミックな投球フォームで行われるクリケット

来賓紹介や祝辞、授賞式など長時間に渡り、終了後はバーベキューで懇親を深めました。

今回は、日本で初めて行われる国際大会で、すべてが手探りの状態でした。結局、大会要項ができたのも試合の間近でした。また、なじみの薄い競技のため、スポンサー探しにも苦労しました。残念ながら日本は三位に終わりましたが、大会は大成功でした。これを機に、富士市でクリケットチームができ、クリケットのメッカになってほしいですね。選手の皆さんも大満足で帰国されたので、また国際大会を誘致したいです」と話してくれました。



日本初！クリケットの国際大会が富士市で開催